

まんが平塚の歴史

作・丸島隆雄

二宮尊徳と福住正兄

天保四年（一八三三）から
天保八年にかけて
全国的な飢饉に
みまわれた。

特に、関東・東北の
農村は大打撃を
うけた。

相州大住郡
片岡村（現平塚市）も
例外ではなかった。



小田原の二宮様に
村の立て直しの
お教えを請おう。

片岡村で名主を勤める
大沢市左衛門は、
伊勢原の加藤宗兵衛
たちと相談して、
二宮尊徳（金次郎）の
もとを訪ねた。
尊徳は、各地の
農村復興に
実績をあげており、
各地から尊徳を
訪ねる者が多かった。



尊徳の農村復興の方法を
「報徳仕法」といった。
尊徳は市左衛門に仕法の方針を授けた。

貧しい家、富める家、
それぞれが
協力しあわなければ、
荒廃した村を
建て直すことは
できない。



二宮尊徳（金次郎）

帰村した市左衛門は、
尊徳から言われた
仕法を実践し、
村を立て直す
ことに成功した。
尊徳も
片岡村の成功を
褒め、
報徳善種金百両を
与えた。

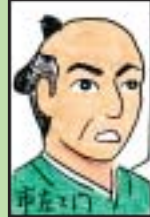


大沢市左衛門の五男を政吉といった。
文政七年（一八二四）生まれ、後に正兄。
正兄、十七歳のときのこと。

私は、
医学を学んで
世の貧しい人を
救いたいと
思います。



本当に、
世のためを
思うならば、
国の病を治す
医者となるのが
よい。



市左衛門は正兄に尊徳のもとで
修行することを勧めた。

このころ尊徳は、
幕府に登用され
江戸に
住んでいた。
この尊徳の
もとで

正兄は五年間
報徳仕法の実地を
学ぶことができた。



嘉永三年（一八五〇）、正兄は
箱根湯本の旅館・福住家の
養子となる。

正兄の働きによって
荒廃していた湯本村と
福住家は立ち直ることができた。



正兄は、福沢諭吉とも
親交があり、湯治に
来た諭吉と箱根の
近代化に
ついて
よく
語り合った。

小田原・箱根間の道を
整備しなくては、
この地域の近代化はない。



福沢諭吉

正兄は、
箱根の近代化の
ために
道路整備など
さまざま
事業を
推し進めた。



尊徳の言動についてまとめた
『一宮翁夜話』、
結社による
報徳仕法の
解説書とも
いえる

『富国捷徑』
などは
正兄の
代表作で、
これらを著すことで、
報徳仕法の普及にもつとめた。

